

イクメンデビューの新米パパに

突撃インタビュー

平成25年4～5月、イクメンデビューを応援する講座、「パパの手で作る赤ちゃんとハッピータイム」がエセナおたで開催されました。内容は、ベビードレス、ベビーマッサージ、子どもが喜ぶ手遊び、パパ同士のディスカッションなど。定員15組に対し、応募は65組！会場は和やかな親子の顔で包まれました。

この受講者の中から、新米パパ3人（全員30代前半）にお話を伺いました。妻が専業主婦のAさん、共働きで現在は育児中のBさん、そして実家の家業を夫婦で手伝っているCさんです。

普段の育児時間はどのくらい？

Aさん「帰宅が9時頃のため平日はほとんど育児ができません。妻はストレッチがたまっていると思うので、話をよく聞いたり、土日に集中して育児をしたりしています」

Bさん「普段から家事・育児は積極的にやっています。妻は来年の1月まで育児で、その後は職場に復帰するが、

妻が育児前の共働きの時から先に帰って来たほうが夕飯を作るようにしていました。一人暮らしが長かったため家事は一通りできるので、家事や育児はやれるほうがやるようにしています」

Cさん「妻の実家の仕事を夫婦で手伝っており、妻と子どもと一緒にいる時間は長いです。職場も近所のため、昼休みになると自分が自宅に戻り子どもの面倒を見ていたりします。妻があきれられるほど積極的に子どもの面倒を見ていますよ(笑)」

子どもが生まれて変わった？

Aさん「独身時代は自分中心で好きなことをやっていたが、子どもが生まれて子ども中心に変わりましたね」

Bさん、Cさん「あまり変わらない」と共通の答え。さらにBさんは「お互いが家事や育児で足りない部分を積極的に行うようになりました」、Cさんは「子どもが生まれたことで夫婦の距離が縮まったように感じます。今まで以上に妻が自分のことを思いやってくれ

て優しくなり、けんかが減りました」との答えでした。

またBさんへ「ご自身も育児を取ろうとは思わなかったですか？」と質問したところ「自分が育児を取るなんて発想は、全くなかったです。わが社で育児を取った男性はいませんので。ただ今になって思うと、育児を取れるのであれば、取って一定期間育児に専念するのもおもしろそうかなと思います」とのこと。

10年後の理想の夫婦像は？

「お互いのことを思いやり、共通の趣味を楽しんだり、外でデートしたり、新婚当時の気持ちのままであいらたらしいですね」と3人共通。

こんなに変わったパパたち！

講座参加者の妻はどう思っているのでしょうか？記入してもらったアンケートの感想です。

●講座に参加して夫は自分の育児に自信をもったようです。友人に「俺はイクメン講座に通っている」と自慢していて、それにあわせて育児を手伝って

くれるようになりました。

●夫がとにかく優しくなりました。「俺が子どもを見ているからゆっくりにお風呂に入っておいで」と言ってくれ、お風呂からあがると夫のベビードレスで子どもが寝ていることが多いです。「会社にいるほうが数倍楽だぜ」とも言っています。

●講座を受ける前と後では夫の息子のあやし方がまったく変わりました。どうやったらいいかわからなかった夫が講座後は自分から息子を泣き止ませたり、寝かしつけたりしてくれています。育児に自信をつけたみたいです。

●寝かしつけはおっぱいになわなないと思っていた夫がベビードレスを学んで寝かしつける自信が付き、やってくるようになることができました！

●夫が最も良かったのはパパ同士の性的育児について悩みを共有できたととても嬉しかったと言っていました。

